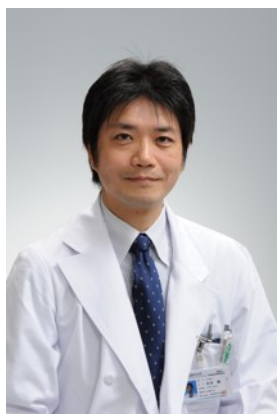


消化器内科専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに



2004 年度に始まった初期臨床研修制度の導入以降、地域における医師不足という問題が大きくクローズアップされてきました。すなわち、これまで地域の医療体制は大学医局から派遣された医師により支えられていましたが、初期研修制度の導入以後、大学に入局する医師は減少し、各大学とも関連病院へ医師を派遣できないという事態が全国的に多くの診療科において生じています。静岡県内における消化器内科医に関しても例外ではなく、このような事態が今後も続くようであれば消化器内科の医療レベルの低下と地域医療における貢献が次第に損なわれていくことが懸念されます。しかしながら我々静岡県の消化器内科診療においては、カプセル内視鏡をはじめとする最新検査や ESD（内視鏡的切開剥離術）をはじめとする内視鏡治療手技では全国的にみても遜色のない技術や実績を現在でも保っています。にもかかわらず現在静岡県出身の有能な研修医の多くの目が東京や大阪、名古屋等の大都市に向けられていることから、少なくとも静岡県における魅力的な消化器内科専門医研修プログラムの作成が急務であると思われま

す。

もう一つの問題ですが、2015 年以降の医師国家試験取得者に対しては新・内科専門医制度が適応されます。この新制度では初期研修を 2 年行ったあとに基本領域後期臨床研修（専攻医）を 2 年行うことが義務付けられており、卒後 4 年時に病歴を提出し卒後 5 年時に新・内科専門医の試験を受けることとなります。すなわち、卒後 3 年、4 年の間に内科全般の研修をもう一度行う必要性があり、それと同時進行で subspecialty 領域として消化器内科研修を行う必要性があります。しかしながら、血液内科や免疫内科等はすべての病院に常設されているわけではなく、subspecialty として一定レベルの消化器内科の技術的向上を行いながら新・内科専門医取得資格を得るためには一か所の施設だけではなく各病院間で密に連携をとりながら、研修指導體制を構築していく必要性があります。また、内科認定医制度研修カリキュラムの改訂に伴い消化器病学会の専門医研修カリキュラムも 2013 年に改訂されており、今後消化器病専門医を取得するためにはこの消化器病学会専門医研修カリキュラム 2013を終了することが必須となっています。

そこで今回、県内で活発に消化器内科診療を行っている複数の医療機関が、系列の枠を超えて消化器病専門医を育成し、なおかつ新・内科専門医制度に十分に対応でき、かつ消化器病学会専門医研修カリキュラム 2013 を確実に修得できるような研修プログラムを作成しました。

プログラムリーダー 浜松医科大学医学部第一内科・消化器内科 科長 杉本 健

2 プログラムの目的

この静岡県全県版プログラムは初期臨床研修を終えた医師を対象にしたもので、その目的は以下のとおりである。

- (1) 後期臨床研修中に新・内科専門医取得のための研修を行いながら、subspecialty 領域とし

て幅広い知識と診療能力を身につけた有能な消化器内科専門医を養成すること。

- (2) 静岡県内での活躍の場を優先的に提供し、住民が安心して高度な消化器内科の医療を受けられるようにすること。
- (3) 消化器内科医としての知識・技術習得と並行して卒後4年終了時までには新・内科専門医取得資格を得る(必要な病歴要約を完成させる)こと。さらに卒後5年終了時には新・内科専門医試験を受験できるようにすること。
- (4) 新・内科専門医取得後、卒後7年までに消化器病学会専門医研修カリキュラム2013を終了し消化器専門医試験を受験できるようにすること。

3 目標

◎ 目標症例数

食道癌	10例	胃癌	20例
大腸癌	20例	膵癌、膵腫瘍	10例
肝臓癌	10例	肝炎	10例
胆道癌	10例	消化性潰瘍	30例
炎症性腸疾患	10例	膵炎	5例
胆石症	10例	小腸疾患	10例

◎ 目標検査数

上部消化管内視鏡検査	300件
下部消化管内視鏡検査	150件
消化管透視検査	150件
腹部超音波検査	300件

◎ 学会発表

少なくとも年に1度、日本消化器病学会東海地方会、日本内視鏡学会東海地方会、日本内科学会東海地方会のいずれかで症例発表をおこなう。

4 特徴

- (1) 浜松医大を中心に、静岡県内の病院が協力して行う研修プログラムである。
- (2) プログラムにおける研修・勤務期間は原則5年とし、基本的に研修は複数病院(2病院以上)で行うこととする。
- (3) 消化器の研修に関しては基本的に消化器病学会専門医研修カリキュラム2013に則って行う。
- (4) 研修先の病院の調整は、研修医の希望を配慮し個別に行う。
- (5) 定期的に施行される関連病院が集まって行われる画像診断検討会や症例検討会に参加し、より多くの症例を学ぶ機会を提供する。
- (6) 新・内科研修医制度取得のための病歴が必要な場合には短期間の他病院での研修が行えるようなバックアップを行う(例:研修先に血液内科が常設されていない場合は血液内科の常設されている病院にて短期間の研修を行う)。
- (7) 研修の効果を上げるため各年度の募集定員は10名とする。

5 研修カリキュラム

◎ 研修内容と到達目標

第1年次

- ① 消化器患者の基本管理
- ② 各種検査・治療の目的や合併症、その対処法などの理解
- ③ 消化器疾患の診察方法
消化管出血の診断、肝機能異常の鑑別診断、肝性脳症の診断、急性腹症の鑑別診断
- ④ 消化器疾患に関する検査技術の習得
上部下部消化管内視鏡検査、ERCP、腹部超音波検査、エコー下肝生検
- ⑤ 消化器疾患に対する適切な治療方針の決定と指示
- ⑥ 消化管出血に対する内視鏡的治療技術の習得
HSE 局注、クリップ止血、APC
- ⑦ 画像診断法(CT, MRI, 腹部エコー, 血管造影, 胃透視, 注腸造影等)の的確な読影能力の習得
- ⑧ 患者さんへの検査・治療説明およびインフォームドコンセントの習得
- ⑨ 新・内科専門医習得のための病歴が不足している場合は必要な専門科にて短期間の研修を行う。

第2年次

- ① 胃透視、注腸造影の実施
- ② 消化管悪性疾患に対する内視鏡的治療技術（介助・実施）の習得
内視鏡的粘膜切除術、ポリペクトミー
- ③ ERCP 関連手技の習得
EST、載石術、内瘻化術等
- ④ 内視鏡関連手技の習得
内視鏡的胃瘻造設術、消化管異物除去術、EIS、EVL 等
- ⑤ 肝悪性疾患に対する局所治療技術（介助・実施）の習得
PEIT、RFA
- ⑥ 消化器系悪性疾患に対する化学療法技術の習得
- ⑦ 新・内科専門医習得のための病歴が不足している場合は必要な専門科にて短期間の研修を行う。

第3年次以降

- ① 消化器系特殊診断技術の習得
EUS、IDUS、PTCS 等
- ② 消化器系ドレナージ技術の習得
PTCD、PTGBD 等
- ③ 新技術の的確な導入能力を身につける
- ④ 治療成績の的確な統計的評価、発表能力の習得（学会発表等）
- ⑤ 新・内科専門医取得
- ⑥ チーム医療の指導

これらは日本消化器病学会専門医研修カリキュラム 2013 をもとに作成されており、よって消化器病学会専門医を取得するために十分な修練・経験が得られるようなプログラムとなっている。

6 研修例

卒後3年目の医師の研修計画（例）

1 年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	大学病院にて研修											
2～3 年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	A病院にて研修、新・内科専門医取得のための病歴要約完成、新・内科専門医取得											
4～5 年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	B病院にて研修、日本消化器病学会専門医取得											

※日本消化器病学会専門医の申請には新・内科専門医を取得し、消化器病学会の定める認定施設もしくは関連施設において専門医研修カリキュラム2013を修了していることが必要です。

7 研修病院群（処遇・症例実績を含む）

◎ 2015－研修指定病院とプログラム責任者、プログラムの特徴

① 浜松医科大学 第一内科・消化器内科（教育病院） 教育責任者 杉本 健

浜松医科大学第一内科・消化器内科では食道、胃、大腸、小腸などの消化管疾患と胆膵疾患を扱っています。内視鏡を用いた診断と治療の進歩はめざましいものがあり、当科では最新の医療技術と医の良心の二者を備えた医療を心がけております。

消化器がんについては、的確な診断のもとに治療方針を決定し、内視鏡治療、薬物療法、必要に応じた外科的手術療法のそれぞれの長所を組合わせた集学的治療を行っています。内視鏡治療では、粘膜切除（剥離）術やレーザー治療、ステント挿入術などの最先端の方法を取り入れ、一方、化学療法や放射線療法については、専門医の育成をはかり、標準療法のみならず、2次治療、3次治療も、最新の治療薬を用いて積極的に行なう体制を築いております。近年特に増加傾向にある潰瘍性大腸炎、クローン病などの炎症性



腸疾患に対しては、白血球除去療法や生物学的製剤など、最新の治療を導入しています。近年注目されてきた小腸疾患の診断に対してはカプセル内視鏡及びダブルバルーン小腸内視鏡検査を多用し、新しい診断と治療の確立を目指しています。消化性潰瘍、逆流性食道炎などの胃酸関連疾患の治療には開学以来40年の実績を踏まえ積極的な介入的治療を行っています。特にヘリコバクターピロリの除菌療法については、除菌不成功例に対しての2次除菌も積極的に行なっております。また薬物代謝遺伝子の型による薬剤への感受性の差を確認した上でのテーラーメイド型治療も全国に先駆けて実施が可能となっています。近年臨床研究として大腸癌の高感度検査の開発も行なっております。

我々のグループでは、常に新しい医局員を求めています。若い医師の皆さんで消化器を専門として学びたい、或は、消化器を含めた広い範囲での内科医師の基本を身につけたいという希望のある方は、是非我々の門を叩いて下さい。

医局は、関連病院を含め、様々な教育のツールを有しています。大学病院は近隣病院に無い新しい診断ツールを備えています。

【教育体制】

杉本 健（消化器内科長・内科学第一准教授）

所属学会：日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化管学会、米国消化器病学会

認定医・専門医：日本内科学会総合内科専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本がん治療認定医

大澤 恵（光学医療診療部講師）

所属学会：日本内科学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、日本消化管学会、日本臨床腫瘍学会、日本食道学会

認定医・専門医 日本内科学会総合内科専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本がん治療認定医、日本消化管学会認定医

高垣 航輔（第1内科助教）

所属学会：日本内科学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、日本消化管学会

認定医・専門医：日本内科学会総合内科専門医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化管学会認定医

岩泉 守哉（第1内科助教）

所属学会：日本内科学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、日本臨床腫瘍学会

認定医・専門医：日本内科学会総合内科専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本がん治療認定医

濱屋 寧（臨床腫瘍学助教）

所属学会：日本内科学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、日本消化器がん検診学会、日本臨床腫瘍学会

認定医・専門医：日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本がん治療認定医

田村 智（第1内科診療助教）

所属学会：日本内科学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会

認定医・専門医：日本内科学会認定医

杉山智洋（第1内科診療助教）

所属学会：日本内科学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会

認定医・専門医：日本内科学会認定医

② 浜松医療センター 消化器内科（教育病院） 教育責任者 金岡 繁

浜松医療センターは、浜松医科大学関連教育病院であるばかりでなく、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院でもあり、先進医療技術センターや健診センターも併設し、高度な機能を有する606床の病院として、救急・災害医療をはじめ公的な事業を行っています。また、開放型病院として診療所の医師が病院の医師と共同して診療にあたるオープンシステムを取り入れており、診療所・病院、さらには浜松医科大学との深い連携のもとに、時代のニーズに応えた最新・最善、か



つ安全な、患者第一主義の医療を浜松市民に提供することを目指し、かつまた市民の健康増進や疾病予防にも努めています。

当科は現在、12名のスタッフがおり研修医の先生が一人

前の医師・消化器内科専門医になるための必要な

ものを提供できる体制が整っています。外科・病理科との術前・術後カンファや、放射線科・外科との画像カンファなど消化器内科として必要な検討会が毎週行われ、各内科との横断的勉強会なども充実しています。

資格取得において、日本内科学会・日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会・日本肝臓学会・日本消化管学会・日本消化器がん検診学会・日本超音波医学会・日本癌治療学会・日本臨床腫瘍学会のような様々な消化器関連学会認定に必要な指導スタッフ、環境が整っています。専門医や認定医資格取得を目指して、高度な研修を受けることが可能です。また、他科へのローテーション希望者には応談にて対応可能です。



【教育体制】

日本内科学会指導施設（指導医 7名）、日本消化器病学会指導施設（指導医 3名）、日本消化器内視鏡学会指導施設（指導医 6名）、日本消化管学会（指導医 3名）、日本肝臓学会（指導医 1名）、日本超音波医学会（指導医 1名）

③ 聖隷浜松病院 消化器内科（教育病院）

教育責任者 佐藤嘉彦



聖隷浜松病院は急性期病院として、静岡県西部地域で一般診療と救急診療に重要な役割を果たしている。全科にわたり豊富な症例を有し、十分な臨床経験を積むことが可能である。消化器科の入院患者数は当院でもっとも多く、救急疾患への初期対応に続いて、内視鏡治療や放射線科的なインターベンション、放射線治療・化学療法、さらに緩和医療に至るまで、高度な医療機器と技術・指導のもとでの臨床研修が可能である。

当科は現在、消化器内科 14名（うち3名は専門医研修医）おり、十分な指導のもとで研修することが可能であり、地域がん診療連携拠点病院として、静岡県西部を中心とした消化器癌の治療を外科・放射線科との連携の上、積極的に行っている。

検査手技としてはまず上部消化管内視鏡（年間 6000例）・下部消化管内視鏡（年間 3000例）、消化管造影検査、腹部超音波検査の基本を学び、その後、ERCP、EUS（超音波内視鏡検査）、内視鏡治療

等の応用も研修することが可能である。EUS は年間 400 例以上の実施件数があり、EUS を応用した手技である EUS-FNA を生検検査のみでなく腹腔神経叢ブロックや胆道ドレナージなど治療面への応用も実施している。

消化管内視鏡治療に関しては、早期胃癌、食道癌、大腸癌に対する内視鏡切除（ESD：内視鏡的粘膜下層剥離術）を静岡県西部でいち早く導入し、年間 200 例余、2014 年 12 月までに 1600 例以上の ESD を実施し地域の中心的な役割を担っており、高度な内視鏡治療の習得が可能である。進行胃癌・膵癌による悪性消化管狭窄や、膵・胆道癌等の悪性胆道狭窄に関しても、経内視鏡的な金属ステント (EMS) 留置を、患者の QOL 改善のため積極的に行っている。

肝癌に対してはラジオ波焼灼術 (RFA) を CT/MRI 画像と連動しながら超音波で走査しながら高精度に治療できるナビゲーションシステムを用いて実施しており、肝動脈塞栓術 (TAE) を放射線科との協力により数多く行っている。

週 1 回、外科・放射線科・病理科と合同カンファレンスを行い、内視鏡治療例や外科手術症例の病理を中心とした検討と術前症例の検討を行っている。他に放射線科との画像中心のカンファレンスも週 1 回行っており、診断能力も養うことができる体制を整えている。進行癌への化学療法を食道・胃・大腸癌のみならず、膵・胆道癌に対しても多数例に実施しており、化学療法の研修にも適した環境となっている。

【教育体制】

< 研修責任者 >

佐藤嘉彦（消化器内科部長）

日本内科学会認定専門医、日本消化器病学会指導医・支部評議員

日本消化器内視鏡学会指導医・支部評議員、日本消化吸収学会評議員、浜松医科大学臨床教授
医学博士

< 指導医 >

長澤正通（肝臓内科部長）

日本消化器病学会指導医、日本肝臓学会指導医・東部会評議員

日本消化器内視鏡学会指導医、日本超音波医学会指導医、日本内科学会認定医
医学博士

< 指導医 >

清水恵理奈（主任医長）

日本内科学会認定専門医、日本消化器病学会指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、
日本肝臓学会専門医、浜松医科大学非常勤講師、医学博士

④ J A 静岡厚生連遠州病院 消化器内科（教育関連病院） 教育責任者 梶村 昌良



遠州総合病院は昭和 13 年に開設された市内でも最も歴史のある病院の一つです。JR 浜松駅から徒歩 10 分ほどの市街中心部に位置し、病床数 400 床の中規模な病院です。現在医師は 59 名の常勤医と 15 名の研修医が在籍し、こじんまりとしているため非常に各科の風通しのいい病院です。

当科は 5 名の消化器病専門医を含む 7 名の常勤医が消化器疾患を中心に専門的に検査、治療を行っています。

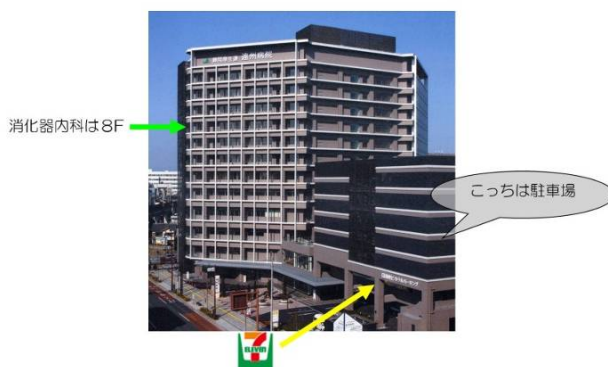
平成 19 年に新病院に移転し、内視鏡関係を中心に設備を一新しています。上下部内視鏡ともに拡大・NBI を導入し早期発見、内視鏡治療に役立てています。また専用の血管造影設備を有し、PEIT および RFA と併用し積極的に肝臓治療を行っています。

最近注目されている NSAID による小腸病変や出血源不明消化管出血に対し、カプセル内視鏡を導入しています。

厚生連病院であるため、JA 関連を中心に継続的に健診を受診される方が多く、積極的に胃がん検診に内視鏡を導入しています。

総病床数 400 床の病院の消化器内科をスタッフ数 7 名で担当しています。数年間の研修期間で消化器救急疾患、Common Disease の対応から消化管、肝胆膵疾患の診断、病態に基づいた治療法の習得、上部、下部内視鏡検査、内視鏡下処置、胆膵系の検査手技、処置の習得を目指します。消化器内科では週 1 回の症例カンファレンスに加え、消化器外科グループ、病理医とも週 1 回のカンファレンスを行い、手術症例のみならず、自らの担当症例に対し、内科、外科各指導医からの意見を聴く機会を設けています。また、放射線読影医を交えた画像診断総合カンファレンスを月 1 回開き、画像診断困難例の検討を行っています。日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会の認定施設となっており各専門医取得が可能です。

JA 静岡厚生連遠州病院



【教育体制】

梶村昌良（副院長）

日本内科学会認定医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化管学会胃腸科認定医・指導医、人間ドック健診専門医
日本総合検診医学会検診指導医、臨床修練指導医

白井直人（診療部長）

日本内科学会認定医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本ヘリコバクター学会専門医、日本消化管学会胃腸科認定医・指導医

竹内靖雄（診療部長）

日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会認定肝臓専門医

- 西野眞史（診療副部長）** 日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医、
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化管学会胃腸科認定医
日本ヘリコバクター学会ヘリコバクターピロリ治療認定医、がん治療認定医
- 松下直哉（副院長）** 日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医

⑤ 浜松南病院（教育関連病院） 教育責任者 渡邊文利



潰瘍性大腸炎とクローン病などの炎症性腸疾患、食道・胃・大腸のがん、また肝臓・胆嚢・膵臓の各種疾患に対し、最新の医療機器を用いて内科・外科の枠を超えた総合的な医療を行います。

特に炎症性腸疾患に対しては最新の医療情報に基づく治療を行うだけでなく、医師・看護師・管理栄養士からなるチームによる生活・栄養指導に加えて精神的なサポートも行っています。また、臨床・基礎的研究を推進し、豊富な症例や経験に基づき、新たな知見を学会発表や論文などのかたちで国の内外に情報発信しています。

【教育体制】

渡邊文利（院長）

- 日本内科学会認定医、指導医
- 日本消化器病学会専門医、指導医、学会評議員
- 日本消化器内視鏡学会専門医、指導医、学会評議員
- 日本消化器がん検診学会認定医、支部評議員
- 日本胆道学会指導医
- 日本消化管学会認定医、専門医、指導医
- 医学博士



花井洋行（消化器病・IBDセンター長）

- 日本消化器病学会専門医、指導医、学会評議員
- 日本消化器内視鏡学会専門医、指導医、学会評議員
- 日本消化管学会専門医、評議員
- 日本消化器がん検診学会指導医、評議員
- アメリカ消化器病学会：特別会員（AGAF、FACG）
- 医学博士

飯田貴之（副院長）

- 日本内科学会認定医
- 日本消化器病学会専門医
- 日本消化器内視鏡学会専門医
- 医学博士

池谷賢太郎（消化器病・IBDセンター副センター長）

日本内科学会認定内科医

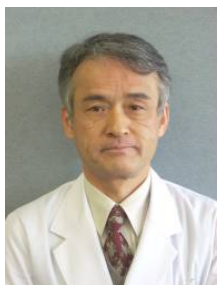
日本消化器内視鏡学会専門医 指導医 東海支部評議員

日本消化器病学会専門医 東海支部評議員

日本消化管学会胃腸科認定医、専門医、指導医

日本がん治療認定医

⑥ 磐田市立総合病院 消化器内科(教育病院) 教育責任者 犬飼 政美



当院は、地域の中核病院として消化器疾患全般を対象に、ガイドラインや医療水準に則った専門性の高い医療を行っています。

地域基幹病院に必要な消化器診療を実践できる医師になるために、消化器内科医としての幅広い臨床能力を身につけることを目標に指導しています。当院は、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本肝臓病学会認定施設であり、当院で診療実績を蓄積することにより、各学会の専門医・指導医の資格を取得することが可能です。

【教育体制】

犬飼 政美（副病院長）

日本内科学会認定医、日本消化器病学会指導医

日本消化器内視鏡学会指導医

齋田 康彦（消化器内科部長）

日本内科学会認定医、日本消化器病学会指導医

日本消化器内視鏡学会専門医

笹田 雄三（消化器内科部長）

総合内科専門医、日本消化器病学会指導医

日本消化器内視鏡学会指導医、日本肝臓学会専門医

日本超音波医学会専門医、日本がん治療暫定教育医

高橋百合美（消化器内科科長）

日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医

山田 貴教（消化器内科科長）

日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会専門医、日本がん治療認定医



⑦ 中東遠総合医療センター 消化器内科(教育病院) 教育責任者 高柳正弘



当院は、掛川市立総合病院と袋井市立袋井市民病院を統合し、2013年5月1日に掛川市内で新規に開院しました。掛川市、袋井市を含む中東遠東部地区の中核病院として、消化器疾患全般を対象に診療を行っています。消化器病学会指導医・消化器内視鏡学会専門医・肝臓学会専門医が在籍し、食道・胃・十二指腸などの上部消化管疾患や、大腸・直腸などの下部消化管疾患、肝臓疾患や胆道・膵臓疾患まで、消化器疾患全般を広範に診療しています。また、名古屋大学医学部消化器内科の関連施設として、種々の先端医療を大学病院医師と共に行っています。

病診連携による紹介、あるいは人間ドック後の精査、地域の救急搬送などにより、幅広い消化器疾患症例が集まる環境であり、消化器内視鏡下の検査・処置についても平成25年度は11か月で上部消化管3813件、下部消化管1561件、膵・胆道196件を施行しました。平成26年12月に消化器内視鏡学会の指導施設登録をいただき、平成27年4月からは肝臓学会の認定施設に指定していただく見込みとなっています。忙しい中にも充実した研修を受けてもらえると考えています。

【教育体制】

高柳正弘

日本消化器病学会指導医・専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本肝臓学会専門医、日本医師会認定産業医
初期臨床研修指導医

綾田 穰

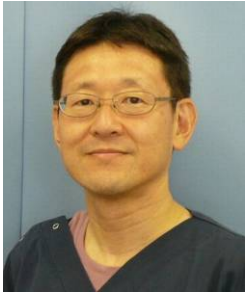
日本内科学会認定内科医、日本内科学会指導医
日本消化器病学会専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
日本肝臓学会専門医、日本感染症学会ICD
日本化学療法学会抗菌化学療法認定医

小野幸矢

日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会専門医
日本肝臓学会専門医、初期臨床研修指導医



⑧ 菊川市立総合病院 消化器内科(教育関連病院) 教育責任者 二見 肇



菊川市は静岡県南西部に位置し、菊川市の由来である菊川の中流域に位置しています。当院は、菊川市が運営する自治体病院です。当院はお茶畑や水田に囲まれた丘陵地に建ち、病室からはのどかな田園風景を眺めることができます。また、病院敷地内に植えられた桜やつつじなどの多くの樹木と相まって、静かで、落ち着いた環境で診療を受けることができます。一般病床202床（回復期リハ病床40床を含む）と精神科病床58床を有する総合病院であり、健診センターを併設し予防医療にも力を入れています。

近年、高齢化の急速な進行、疾病構造の変化などにより、地域医療のあり方やニーズも大きく変わってきており、当院としても様々な取り組みを行っています。平成21年度より磐田市立総合病院、公立森町病院と共同して静岡県家庭医養成プログラムを立ちあげました。現在（平成23年4月）、9名の医師が幅広い診断能力を持った家庭医を目指し、研修に励んでいます。当院の特徴は以下の通りです。

- ①. 消化器科以外の内科疾患も合わせて研修できます。
当院では家庭医養成プロジェクト研修も行なっており、その know-how を生かすことができます。
- ②. 病院規模は大きくありませんが、消化器内科疾患の種類は豊富で、研修医の数を勘案すると一人当たりの疾患受け持ち数、経験数は十分と思います。現在当院では ESD、小腸内視鏡は施行していませんが、その他の手技に関しては十分修得可能です。
- ③. 中規模病院で各科との風通しは抜群に良好で、すぐコンサルトも可能です。当院は県下で唯一入院施設のある精神科も併設しており、内科以外の研修が不足していると感じる場合は、他科研修も考慮します。



【教育体制】

二見 肇(副院長)

日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
日本内科学会総合内科専門医
がん化学療法認定
日本医師会認定産業医
静岡家庭医養成プログラム指導医

望月一文(診療科長)

日本医師会認定産業医、ICD制度協議会インфекションコントロールドクター

石橋るり(診療科長)

日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本内科学会認定医

⑨ 藤枝市立総合病院 消化器内科（教育病院） 教育責任者 丸山保彦

消化器科における後期研修は、3年間の研修期間に内科系全般に対する基礎的な知識、診療技術を習得したうえで、消化器病学における幅広い知識、技術を有し質の高い医療が実践できる専門医を育成することを目標にしています。

地域がん診療連携拠点病院として、上部・下部消化管内視鏡治療、胆膵疾患の精査・治療に力をいれて取り組んでいます。外科、緩和医療科、放射線科、臨床病理科、化学療法センターとの連携も有機的に機能して一人一人の患者さんに多方面からの視点で治療に当たることができます。また、透視検査やエコー検査では熟練した技師から卓越した技術を学ぶことができます。後期研修医の皆さんに伝えたいのは知識・技術・資格だけでなく、広い視野に立ちながら問題点を把握しつつ専門家として最善の治療を選択できる力量と、患者さんの気持ちに寄り添える臨床マインドです。研修を通じて自身の技術的進歩と精神的成長、さらに患者・スタッフからの信頼を得る喜びや充実感を是非実感してもらいたいと思います。



■研修内容と到達目標

【一般目標】

- 1) 消化器疾患の病態生理の理解。
- 2) 消化器疾患の診断、治療技術の習得。
- 3) 臨床経験、臨床研究（多施設協同研究を含め）の報告（学会、論文）により、医療レベルの上昇に貢献する。
- 4) 日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会の専門医を取得する。

常時開催されるカンファレンスは以下の通り

月～木：8:00～8:30 新入院患者プレゼンテーション

金：7:45～8:30 入院患者プレゼンテーション

火：18:00～20:00 消化器内視鏡の読影、消化管造影の読影、症例検討

水：18:00～19:00 手術症例検討会（外科・放射線科・病理と合同）

【個別目標】

1年目

単純X P，U Sをはじめとする基本的検査、救急処置一般を理解、実施でき検体検査の理解と評価を習得し、内視鏡の前処置、消毒の一般的知識を理解できる。

消化管のX線検査（胃透視、注腸検査）については実施、読影ができる。

上部消化管内視鏡検査は独立して施行でき、E I S，EMR，E S D等の治療手技および下部消化管内視鏡検査は助手として携わり経験する。

腹部血管造影、T A Eは放射線科医の指導を受け経験する。

消化器疾患の病態および消化器疾患の診断、治療につき十分な知識を習得する。

2年目

上部消化管のE I S，EMRの治療手技、下部消化器内視鏡検査、E U S，肝胆膵の検査（肝生検、E R C P）は独立して行なえる。

E S Dと肝胆膵に治療手技（P E I T，R F A，T A E，P T C D，E S T，E P B D等）には助

手として携わり経験する。

3年目

内視鏡的止血術、ESD、肝胆膵の治療手技を術者として独立して行なえる。

内視鏡治療の適応患者の選択、化学療法を選択・管理が独立して行える。

胃癌検診の間接撮影の読影に参加する。

初期研修医の指導も行なう。

■後期研修（4～5年目以降）

各症例において自分なりの疑問点を持ち続け、学会総会でのシンポジウム、パネルディスカッション等での発表、および論文発表を目指す。

後輩やコメディカルへの教育的配慮ができる。

緩和医療に対して疼痛コントロールだけでなく精神的なサポートができる人間性を滋養する。

■学会認定

日本消化器病学会 認定指導施設

日本消化器内視鏡学会 認定指導施設

【教育体制】

丸山保彦（消化器内科 統括診療部長）

日本内科学会指導医・総合内科専門医・認定医

日本消化器内視鏡学会指導医・専門医・評議員

日本消化器病学会指導医・専門医・評議員

日本消化管学会胃腸科専門医

日本がん治療認定医機構暫定教育医・がん治療認定医

日本ヘリコバクター学会ピロリ菌感染症認定医

景岡正信（消化器内科 科長）

日本内科学会指導医・認定医

日本消化器内視鏡学会専門医・指導医

日本消化器病学会専門医・指導医

日本胆道学会認定指導医

大島 昭彦（消化器内科 医長）

日本内科学会認定医

日本消化器内視鏡学会専門医

日本消化器病学会専門医

寺井智宏（消化器内科 医長）

日本内科学会総合内科専門医・指導医

日本消化器内視鏡学会専門医

日本消化器病学会専門医

日本がん治療学会認定医

⑩ 焼津市立総合病院（教育病院） 教育責任者 小平誠

当科は現在、5名の常勤医、5名の非常勤医（内視鏡検査、血管造影担当）と1-2名の初期臨床研修医（ローテート）で、年間延べ17,000名の外来患者、1,300名の新規入院患者の診療を行っています。

取り扱う疾患は、消化性潰瘍、炎症性腸疾患、胆石、肝炎・肝硬変等の消化器科疾患一般が中心であり、専門病院にありがちな症例の偏りなく経験することができます。また内科医不足のため、呼吸器、血液疾患なども担当でき、小回りがきく病院なので他領域の内科や外科などと気軽に相談しながら診療を進めることができます。

研修は、主に「日本消化器病学会専門医研修カリキュラム2013」に沿って行います。

消化器科医として必須な内視鏡手技は上級医の指導のもと習得していただきますが、まず上部消化管内視鏡検査を数多く経験してもらい、基本的な内視鏡操作に慣れたら大腸内視鏡検査や内視鏡治療（EMR、ESD、ポリープ切除、ERCPなど）に移ります。

ローテートまたはストレート研修のどちらでも大歓迎です。当院は日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会の認定施設となっており各専門医取得が可能です。

【教育体制】

小平 誠（消化器内科長兼治験管理室長）

日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医
日本消化器病学会認定消化器病専門医・指導医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医
臨床研修指導医

寺澤 康之（消化器内視鏡室長）

臨床研修指導医

佐野 宗孝（内視鏡治療科長）

日本消化器内視鏡学会認定専門医
日本消化器病学会認定消化器病専門医
日本内科学会認定医
臨床研修指導医

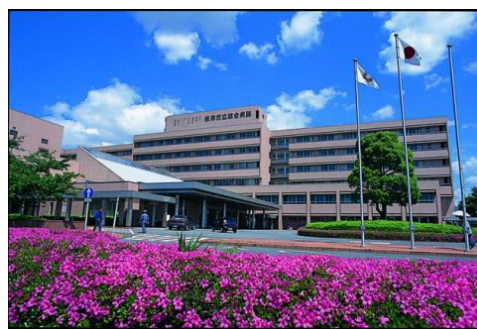
渡邊 幸弘（医長）



日本内科学会認定医
日本消化器病学会認定消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会認定専門医
臨床研修指導医

山形 真基（医長）

日本内科学会認定医
日本消化器病学会認定消化器病専門医
臨床研修指導医



⑪ 静岡県立総合病院（教育病院）教育責任者 高木正和

静岡県立総合病院は病床数720床、29診療科よりなる静岡県を代表する総合病院です。従来消化器外科とともに“消化器センター”内にありました“消化器内科”は2015年1月より“消化管内科”と“肝胆膵内科”に分離独立し、専門性を高めることとなりました。

消化管内科では早期がん治療に対する胃の切開剥離法を2004年より、また大腸の切開剥離法も2010年より導入し、低侵襲ながん治療を実践しています。一方で手術不能ながん患者様に対しては消化管ステント術などを行い、緩和内視鏡治療についても行っています。またCT画像を使用したバーチャル小腸内視鏡を5年以上前より導入しており、カプセル内視鏡とあわせ、小腸疾患の診断治療に触れることが出来ます。

入院患者は悪性良性疾患あわせ、年間のべ1000人以上(肝胆膵、消化管あわせ)にのぼり症例数の多さは言うまでもなく、標準的な医療に加えて先進的な医療を提供するための努力を怠らない上に、研究会、学会活動を精力的に行い、日本語、英語での多数の論文を発表しております。

これらを基盤としたプログラムされた有意義な臨床研修を提供致します。特に、手技に関わる研修においては、主治医となる研修医の皆さんに出来る限り直接手がけていただけるように、スタッフが文字通り手取り足取りの指導を致します。さらに、研究会、国内外の学会に積極的に参加していただきます。日本語、英語での論文の指導も致します。

静岡県立総合病院では有意義な臨床研修をお約束できます。

【教育体制】

1. 消化管内科

大野和也（部長） 平成11年岐阜大学卒業

日本内科学会認定医

日本消化器内視鏡学会専門医

日本消化器病学会専門医

黒上貴史（部長） 平成12年京都大学卒業

日本内科学会認定医 日本消化器病学会専門医

吉川俊之（非常勤）

2. 肝胆膵内科

菊山正隆（部長） 昭和60年浜松医科大学卒業

日本消化器病学会指導医

日本消化器内視鏡指導医

日本胆道学会指導医

日本内科学会認定医

日本膵臓学会員

白根尚文（医長） 平成11年京都大学卒業

日本消化器病学会員

日本消化器内視鏡学会員



⑫ 静岡市立清水病院（教育病院） 教育責任者 窪田裕幸



静岡市立清水病院は静岡市清水区（旧清水市）にある500床の急性期病院です。病院は三保半島の付け根にあり、病室の窓からは東に富士山や箱根山、南に駿河湾と伊豆半島、西に日本平とJ1清水エスパルスの本拠地であるIAIスタジアムを望むことができる非常に風光明媚なロケーションにあります。世界文化遺産に認定された三保の松原も車で数分の距離にあります。また食生活では清水港から水揚げされる豊富な海の幸を堪能することができ、気候も温暖で生活するには申し分のないところです。

当院消化器内科は2014年現在、常勤医5名体制で日常診療に当たっており、消化器病関連の代表的学会である日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設にもなっており、各学会の専門医の取得が可能です。

われわれは肝臓を含めた消化器疾患全般を扱っていますので、片寄りなく幅広く消化器疾患について学ぶことができます。消化管疾患と胆膵系疾患については、内視鏡センターにて、上・下部消化管内視鏡、小腸内視鏡、超音波内視鏡、胆膵内視鏡検査（ERCP）を行っています。また消化管出血に対する内視鏡的止血術、早期食道癌・胃癌や大腸腫瘍に対するポリペクトミーや内視鏡的粘膜切除術（EMR・ESD）、総胆管結石の内視鏡的結石除去術や消化管・胆道悪性狭窄に対するステント留置術などの治療内視鏡も、指導医立会いの下、積極的に後期研修医に術者になってもらい、実践能力を身に付けてもらっています。

肝疾患についても、B型慢性肝炎・肝硬変に対しては核酸アナログ製剤を用いた抗ウイルス療法、C型慢性肝炎・肝硬変に対しては、ペグインターフェロン／リバビリン併用療法（3剤併用療法を含む）を中心に行っています。つい最近適応になった経口2剤によるインターフェロンフリー治療も導入しています。肝細胞癌に対するラジオ波焼灼療法（RFA）や経カテーテル動脈塞栓術（TACE）等のインターベンション治療も自らが術者となり技術を学ぶことができます。また、各種消化器癌で内視鏡治療や外科的治療の適応にならない進行癌に対しては、各種ガイドラインに準じた化学療法を積極的に行っています。

外科を含めた他科との風通しもよく、外科とは週1回合同カンファレンスを行い、手術症例について検討を行っています。また病棟入院患者と内視鏡画像に関するカンファレンスも週1回行っています。

消化器内科医には高度な技術が必要であることは言うまでもありませんが、技術習得だけをひたすら追い求めるのではなく、患者さんの立場に立ち、他の医療職種とも協力し合うことのできる、信頼の厚い心豊かな医師になるための指導・協力を行います。

【教育体制】

窪田裕幸（消化器内科長）

日本内科学会認定内科医

日本消化器病学会指導医

日本消化器内視鏡学会指導医

高柳泰宏（消化器内科医長）

日本内科学会認定内科医



日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化管学会胃腸科認定医

池田 誉

日本内科学会認定内科医（消化器内科医員）
日本消化器病学会専門医

宇於崎宏城（消化器内科医員）

日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会専門医

小池弘太（消化器内科医員）

日本内科学会認定内科医

⑬ 富士宮市立病院（教育関連病院） 教育責任者 森雅史



富士宮市立病院は富士山のふもと、富士宮駅徒歩2分の場所に位置し、近隣市町を含め、約15万人の診療圏を持つ地域の中核的総合病院です。病床350床、医師数は49名であり、約520名の職員が従事しております。急性期病院、二次救急医療病院として多彩な症例を有しており、救急は年間約8,000人の患者を受け入れています。当直医師（2～3人）のほか、各科から待機医師を配置し、常に専門の医師による診療が行える体制を整えています。医局は診療科の垣根のない総合医局制であり、高度医療、病診連携を推進し、地域の健康増進に取り組んでいます。

教育体制としては指導医（上級医）と屋根瓦方式あるいはman to manのチームを作り、病棟患者の診療を通じて指導しています。外来患者については、主に救急患者（時間内・時間外）の診療の補助を通じて指導します。学会や、研究会等への参加も積極的に促し、新しい知見や手技の取得、プレゼンテーション方法を指導します。消化器内科グループのカンファレンスとしては、月曜日から金曜日の毎朝8時10分に前日の新入院患者のプレゼンテーション、月曜日18時に消化器内科全入院患者のカンファレンス、火曜日18時に透視検査の読影を行っており、他科との症例カンファレンスも定期的を開催しています。病院内で行われるセミナーのうち、特に若手医師にとって重要な富士宮消化器病研究会、CPC、救急セミナー、薬剤セミナーや各種実習等を開催しています。



【教育体制】

森雅史（内科科長）

日本内科学会総合内科専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器病学会専門医
日本消化管学会胃腸科専門医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

日本救急医学会 ICLS コースディレクター

石田夏樹 (消化器内科医員)

加藤雅一 (消化器内科医員)

樋口友洋 (消化器内科医員)

兼子直也 (消化器内科医員)

8 病院群の症例実績

①浜松医科大学第一内科・消化器内科 (2013年度)

主要疾患の治療(検査、治療法)実績 (件)

上部消化管内視鏡検査	3713
上部消化管経鼻内視鏡検査	365
下部消化管内視鏡検査	1428
上部消化管 ESD・EMR	79
下部消化管ポリペクトミー・EMR	212
小腸内視鏡検査・カプセル	40
小腸内視鏡検査・ダブルバルーン	45
内視鏡的逆行性膵胆管造影・EST	185

主要疾患の治療実績(入院件数)

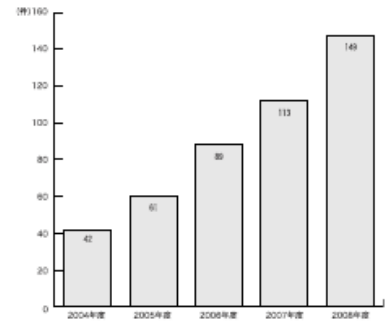
食道癌	63	胃癌	139
大腸癌	26	膵癌、膵腫瘍	28
胆道癌	16	消化性潰瘍	21
炎症性腸疾患	36	膵炎	30
胆石症	40	小腸疾患	39
腸閉塞	14	虚血性腸炎・憩室炎	16
その他	19		

②浜松医療センター 消化器内科 (2013年度)

上部消化管内視鏡検査	4172
上部消化管経鼻内視鏡検査	85
下部消化管内視鏡検査	1743
上・下部消化管 ESD	36
下部消化管ポリペクトミー・EMR	428
小腸内視鏡検査(カプセル・バルーン)	28
内視鏡的逆行性膵胆管造影	358
EST	73
ENBD/ERBD	223
胃瘻造設(交換含まず)	26

③聖隷浜松病院 消化器内科

年度	2006	2007	2008	2009	2010
ESD 総件数	89	113	149	147	185



④ J A 静岡厚生連遠州病院 (2013 年度)

検査件数

上部内視鏡	3554 件	内視鏡的粘膜剥離術	16 件
下部内視鏡	986 件	内視鏡的逆行性胆膵造影	165 件
乳頭切開術	42 件	膵液・胆汁細胞診	18 件

血管造影・TACE 43 件

入院患者疾患

食道癌	16 例	胃癌	90 例
大腸癌	104 例	肝細胞癌	62 例
膵癌	34 例	胆道系	33 例

⑤浜松南病院

2010 年 外来件数

52.3 人/日

13,808 人/年

⑥磐田市立総合病院 消化器内科

<平成 22 年の検査・治療実績 (件)>

上部消化管内視鏡検査 2,430 (止血術 57、粘膜下層剥離術 20、胃瘻造設術 25)

小腸内視鏡検査 25

下部消化管内視鏡検査 1,185 (粘膜下層剥離術 5、ポリペクトミー 225)

逆行性膵胆管造影検査 270 (乳頭切開術 84、乳頭バルーン拡張術 21、総胆管石除去術 88、胆道ドレナージ 103、ステント留置 45)

経皮経肝胆道ドレナージ 20

ラジオ波焼灼療法 12

肝動脈化学塞栓療法 42

⑧菊川市立総合病院 消化器内科

上部内視鏡 1076 件 下部内視鏡 612 件

ERCP と EST、stenting 等関連手技 61 件

TAE 19 件

⑨藤枝市立総合病院

検査・処置の件数（2013年1月～12月実績）

腹部超音波検査	18603件
上部消化管内視鏡	5093件
下部消化管内視鏡	2095件
ERCP	301件
EUS（FNA含まず）	376件
上部ESD	76件
下部EMR/ESD	591件
EUS-FNA	41件
EIS/EVL	38件
胃瘻造設（交換含まず）	17件
腹部血管造影（TAE）	40件
PTCD/PTGBD	35件
造影エコー	44件
肝生検	11件

⑩焼津市立総合病院

【検査、処置の実績】

腹部エコー	7,742
胃内視鏡	3,174
大腸内視鏡	1,433
ERCP	235
腹部血管造影	66
PTCD・PTGBD	13
造影エコー	9
上部ESD/EMR	22
EIS/EVL	20
下部ESD/EMR	525
EST	10
ENBD/ERBD	177
肝生検/腫瘍生検	8
RFA	4 ※平成25年1月から12月まで

⑪静岡県立総合病院

2014年検査の実績

上部消化管内視鏡	4000例
下部消化管内視鏡	1600例
小腸内視鏡（シングルバルーン）	10例
カプセル内視鏡	20例

バーチャル小腸内視鏡	12 例
消化管 EUS	80 例
胃 ESD	100 例
食道 ESD	15 例
大腸 ESD	25 例
食道・十二指腸ステント	20 例
大腸ステント	10 例
消化管拡張術(術後狭窄など)	250 例
ERCP	476 件
EUS	617 件
EUS-FNA	121 件
腹部血管造影	180 件
RFA	48 件

⑫静岡市立清水病院

平成 24 年度

上部内視鏡検査	総数	2710
生検	572	
内視鏡的止血術	92	
内視鏡的粘膜下層剥離術・粘膜切除術	37	
食道胃静脈瘤硬化療法・結紮術	30	
超音波内視鏡	14	
経皮内視鏡的胃瘻造設術	41	
上部消化管ステント留置術	19	
ERCP	総数	177
内視鏡的乳頭切開術	56	
内視鏡的経鼻胆道ドレナージ術	44	
内視鏡的経鼻胆嚢ドレナージ術	5	
内視鏡的胆道チューブステント留置術	2	
内視鏡的胆道メタリックステント留置術	10	
大腸内視鏡	総数	1224
生検	208	
内視鏡的ポリペクトミー術	82	
内視鏡的粘膜切除術	128	
内視鏡的粘膜下層剥離術	8	
大腸ステント留置術	20	
ラジオ波焼灼療法	27	
経皮的エタノール注入療法	0	
肝生検	5	

⑧富士宮市立病院

平成 25 年度消化器内科入院症例

(消化管良性疾患)

胃十二指腸潰瘍例、急性胃腸炎 92 例、虚血性腸炎 25 例、腸閉塞 20 例、大腸憩室出血 41 例、憩室炎 24 例、マロリーワイス症候群 4 例、クローン病 5 例、逆流性食道炎 7 例、潰瘍性大腸炎 9 例、虫垂炎 3 例 等

(肝胆道系良性疾患)

胆石・胆道感染症 144 例、肝硬変 83 例、急性膵炎 36 例、慢性膵炎 8 例、肝炎・肝障害 19 例、肝膿瘍 4 例

(悪性疾患)

肝癌 59 例、胆管癌・胆嚢癌 25 例、胃癌 73 例、膵癌 47 例、大腸癌 76 例、食道癌 20 例、十二指腸癌 2 例、癌性腹膜炎 3 例

(平成 26 年 検査/処置 件数) ※平成 26 年 1 月から 12 月まで

腹部エコー	1714
造影エコー	12
胃内視鏡	2036
上部 ESD/EMR	13
EIS/EVL	49
大腸内視鏡	1141
下部 ESD/EMR	346
ERCP	166
腹部血管造影	28
PTCD・PTGBD	22
EST(EPT)	45
ENBD/ERBD	100
肝生検/腫瘍生検	11
RFA	4

9 研修期間

- ① プログラムにおける研修・勤務期間は原則 5 年とし、基本的に研修は複数病院（2 病院以上）で行うこととする。
- ② 研修先の病院の調整は、研修医の希望を配慮し個別に行う。

10 プログラム参加の要件

- ① 初期臨床研修を終えていること。
- ② 新・内科専門医、日本消化器病学会専門医取得の意思があること。

11 処遇

① 浜松医科大学第一内科・消化器内科

身分：国立大学法人浜松医科大学非常勤職員／医員

給与：日給 13,400 円 通勤手当、超過勤務手当、夜勤手当、宿日直手当等

福利厚生：社会保険（健康保険・厚生年金）制度

医師賠償責任保険加入状況：加入（本院での診療に限る）

休暇：雇用日から 6 月間継続勤務し、全勤務日の 8 割以上出勤した場合に 10 日

医師公舎：職員宿舎有

② 浜松医療センター 消化器内科

給与：（卒後 3 年次）月額 552000 円程度	年額 7,644,000 円程
（卒後 4 年次）	年額 9,000,000 円程
（卒後 5 年次）	年額 9,800,000 円程
（卒後 6 年次）	年額 10,600,000 円程
（卒後 7 年次；医員）	年額 12,000,000 円程

賞与：年 2 回（6 月，12 月）

社会保険：全国保険協会管掌健康保険・厚生年金保険・雇用保険・労災保険加入

宿舎：有（隣接または借り上げ住宅）

③ 聖隷浜松病院 消化器内科

- ・身分聖隷浜松病院 レジデント（常勤）
- ・給与（卒後 3 年次）／月額 450,000 円 超過勤務手当を含む
別途各種手当で支給
※2010.5 現在の規定による
- ・給与（卒後 4 年次）／月額 540,000 円 超過勤務手当を含む
別途各種手当で支給
※2010.5 現在の規定による
- ・給与（卒後 5 年次）／月額 646,000 円 超過勤務手当を含む
別途各種手当で支給
※2010.5 現在の規定による
- ・賞与／年年 3 回支給
- ・社会保険加入
- ・医師賠償責任保険個人において加入
- ・宿舎・住宅あり 宿舎 70,000 円上限 住宅 47,000 円上限
- ・福利厚生健康保険、厚生年金、雇用保険、労働保険加入、退職金制度、永年勤続表彰、見舞金、
宿泊費補助、互助会等
- ・学会補助あり 交通費に関する内規あり
- ・当直回数／月各年次 2～4 回／月程度
- ・当直料／回各年次 18,000 円／回

- ・産休・育休の取得率○
- ・ワークシェアフレックスタイム制度の有無有
- ・再雇用・再研修制度の有無有

④ J A 静岡厚生連遠州病院

身分	常勤
給与	3年目：月額 536,700 円程度 超過勤務手当を含む 4年目：月額 563,900 円程度 超過勤務手当を含む 5年目：月額 593,300 円程度 超過勤務手当を含む
諸手当	通勤手当（実費支給） 宿日直手当（13,000 円/回） 住宅手当 持家：11,000/月 賃貸：家賃の 50%（上限家賃 110,000 円）
賞与	年 2 回
福利厚生	厚生年金、健康保険、雇用保険、労災保険、職員互助会（診療費減免他） 慶弔見舞他給付制度、定期健康診断
医療賠償責任保険加入状況	あり
休暇等	有給 20 日/年、リフレッシュ休暇 5 日/年（初年度 3 日/年） 特別調整休暇 1 日/年、出務・休日調整休暇 0.5 日/月
医師公舎	なし（単身者用職員住宅あり）
その他	公費学会出張（参加：2 回/年・発表：制限なし） 3 回/月の日当直あり。 当直翌日は、できる限り午後休としている。

⑧ 菊川市立総合病院 消化器内科

○身分	菊川市正規職員
○給与	基本給/月、賞与（2014 年度） 3年目 401,300 円 1,090,532 円 4年目 415,000 円 1,127,762 円 5年目 425,600 円 1,156,568 円
○諸手当	医務手当/月 3年目 4年目 5年目 } 179,500 円 宿日直手当・・・48,000 円/回 通勤手当・・・支給（菊川市職員の規定による） 住宅手当・・・支給（上限 27,000/月）
○福利厚生	静岡県市町村職員共済組合等（菊川市職員規定による） 職員互助会、定期健康診断
○医療賠償責任保険加入	あり
○休暇等	有給 20 日/年（1～12 月）、リフレッシュ休暇 3 日/年（4～3 月） 厚生休暇 3 日/（7～9 月）
○医師公舎	ワンルームあり

⑨ 藤枝市立総合病院

当院における後期研修医処遇

身分：医員（藤枝市常勤正規職員）

給与：(円)

	免許3年目	免許4年目	免許5年目
基本給／月	364,000	370,100	375,900
賞与／年	1,653,470	1,681,179	1,707,526
地域手当（15%）	54,600	55,515	56,385
年間基準支給額	8,956,670	9,068,559	9,174,946

医務手当：190,000円／月

⑩ 焼津市立総合病院

<身分>

正規職員（焼津市職員）

<給与>

（卒後3年目）月額365,900円

（〃4年目）月額371,900円

（〃5年目）月額377,600円

<諸手当>

地域手当、医務手当、時間外勤務手当、宿日直手当、緊急呼出手当、通勤手当、住居手当等規定により支給

<賞与>年2回

例）4月に勤務を開始した場合の初年度

6月支給 12月支給

（卒後3年目）249,314円, 894,167円

（〃4年目）253,403円, 908,829円

（〃5年目）257,287円, 922,760円

<社保>年金、医療保険

静岡縣市町村職員共済組合に加入

<宿舎>

有

<その他>

学会参加旅費の支給有

勤務医賠償責任保険は病院負担で加入

⑫ 静岡市立清水病院

身分： 静岡市職員（地方公務員）

雇用形態：常勤

保険： 共済保険・公務災害・医師賠償責任保険

給与： （基本給／月） （諸手当を含めた給与／年）

3年目：261,600円 約10,700,000円

4年目：277,300円 約12,500,000円

5年目：293,000円 約14,700,000円

手当： 賞与、初任給調整手当、宿日直手当、時間外勤務手当、特別勤務手当

通勤手当、地域手当、扶養手当、住居手当（上限30,000円）

休暇： 有休休暇（20日／年（4月1日採用の場合）

夏季休暇、慶弔休暇、病気休暇

⑬ 富士宮市立病院

○ 身分 富士宮市職員

○ 給与 基本給／月、賞与（平成26年度）

3年目 400,890円 1,635,631円

4年目 415,495円 1,695,220円

5年目 432,400円 1,764,192円

○ 諸手当 医務手当／月

3年目

4年目 150,000円＋医務報酬 約150,000円

5年目

時間外手当：完全支給

宿日直手当：15,000円／回

通勤手当：支給（富士宮市職員の規定による）

住宅手当：支給（上限30,000円）

○ 福利厚生 静岡縣市町村職員共済組合、職員互助会、定期健康診断、院内保育所

○ 医療賠償責任保険加入 あり

○ 休暇等 有給20日／年（1～12月）、リフレッシュ休暇5日／年（4～3月）

夏季休暇3日／年（7～9月）

○ 医師公舎 1DK、3DK

※上記に記載のない施設における給与等の処遇についてはそれぞれの施設の規定に準じます。

12 プログラム終了後の進路

- ① 大学にて研究、教育、診療を行う、海外留学する、一般病院勤務医となる、開業するなど個々のライフプランにより決定できる。
- ② 県内の病院に就職をする場合、研修管理委員会が対応する。
- ③ 就職相談窓口では、勤務先病院での処遇、臨床研究、学位取得や海外留学などについて相談を行う。

13 プログラム運営委員会

○ プログラムの管理

〒431-3192 浜松市東区半田山 1-20-1 浜松医科大学第一内科 杉本 健
電話 053-435-2261 Fax 054-434-9774 E-mail:sugimken@hama-med.ac.jp

14 その他

① 遠州総合病院 消化器内科

病院全体の新人歓迎会（4月）、納涼会（7月）、忘年会（12月）は盛り上がります。毎年冬には院長主催のスキーツアーがあります

医局の完備（アクアクララなどのアメニティー完備）

医中誌、Up to date および文献入手の支援。浜松医科大学附属図書館入館カード

② 菊川市立総合病院 消化器内科

ゴルフ、サーフィンをこよなく愛している方、ゴルフ場、海が近く診療の合間(または前)に楽しんでいただくことができ、満足していただけたと思います。